

平成24年度講演

博士から教員への道

東京大学大学院工学系研究科 国際工学教育推進機構

バイリンガルキャンパス推進センター

共催 東京大学実践型リーダー養成事業「イノベーションリーダー養成演習」(PCIL)

日時：2013年2月28日(木) 14:00~16:00

場所：工学部2号館1階212号室

講演者：河野淳一郎 米国ライス大学教授 (本学物理工学修士修了)

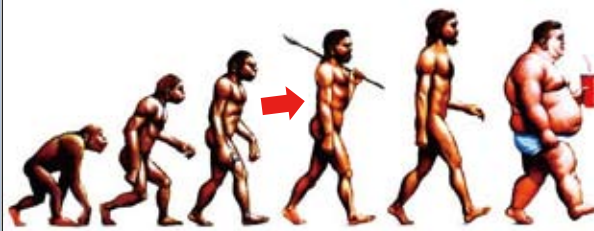
講演名：博士から教員への道—米国からのメッセージ (続編) —

Assistant Professor

- 初めて独立した研究者 (bossなし)
- 自分自身のアイデアで研究
- 自分自身で研究費を取ってくる
- 自分自身の研究を宣伝する
- 学生・ポスドクを指導しながら独自の研究を推進し、自分の地位を確立する



ポスドクからAssistant Professorへ



学部生 大学院生 ポスドク Assistant Professor Associate Professor Professor

Picture adapted from http://giovanniworld.files.wordpress.com/2009/05/evolution_of_man.jpg

内向き志向

「内向き志向(うちむきしこう)とは、日本人の若者が海外で働くことや留学することを近年あまり望まなくなっており、国際的に活躍できる人材が減少し、若者の挑戦する意欲が薄れることで、日本経済の将来に悪影響を及ぼすのではないかと懸念を示す文脈で多く用いられる。近年、メディアによる報道や、政府の公式な文書の中でも、よく使われるようになっている。」(ウィキペディア)



テニユア(tenure)

- 終身在職権
- 通常assistant professorからassociate professor昇進時に授与される
- 通常就任から6年以内にテニユア審査
- 審査に落ちると解雇



教員(Faculty Members)の評価

- 論文の数、論文引用数
- グラントの数(研究費の額)
- 招待講演の数
- ティーチング評価
- 大学への奉仕(委員等)



給料と昇進

テニユア審査

- 論文の数、論文引用数
- グラントの数(研究費の額)
- 招待講演の数
- ティーチング評価
- 外部研究者による審査レター
- 学科審査 → 学部審査 → テニユア・昇進委員会による審査 → 副学長 → 学長



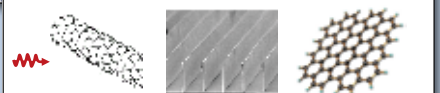
米国理工系大学院(要点のまとめ)

- 研究者の歩み: 学部生 → 大学院生 → ポスドク → 教員
- 学生・教員の流動性、国際性、院生の経済的自立
- 研究者間・大学間の激しい競争を通して研究を遂行しかつ研究者を養成する



Kono's Lab at Rice: Optical Spectroscopy of Nanomaterials

Carbon-Based Nanomaterials



Semiconductor Nanostructures

